

美しく豊かなネイチャーランド 洞爺湖に浮かぶ中島を散策する

春、夏、秋、冬——四季折々に違った表情を刻む洞爺湖。

この湖には、大小4つの島が浮かんでいる。

なかでも大島は、こぶのような小さな山々から成る一番大きな島だ。

針葉樹と広葉樹が入り混じった森林にはさまざまな昆虫や動物が生息し、

ひらけた台地、カーブを描く湾など、地形も変化に富んでいて、

そこはまさしく美しく豊かなネイチャーランド。

山を縫うようにして延びる全長7.6kmの散策道を歩いて、

自然の息吹を感じ、その景観を堪能したい。



栈橋から出航した遊覧船は、温泉街を離れて大島へと向かう。



〔中島周遊コース〕の所要時間はおよそ2時間45分、休憩時間を含めても4時間余りの散策コースだ。

遊覧船「エスポール」に乗って 中島の一つである大島に上陸

湖畔の栈橋から中世のお城をイメージしてデザインされた遊覧船「エスポール」に乗り込み、中島に渡る。「エスポール」は、1階と2階が客室、3階と一部4階がデッキとなっている約700名収容の豪華双胴船だ。

季節は秋、紅葉に彩られた島々は遠目にも美しく、キラキラと輝く湖面はコバルトブルーの色合い。船は意外に速いスピードで湖上を進み、振り返ると温泉街がどんどん遠ざかり、その向こうに有珠山や昭和新山の山容がくっきりと見える。船内にはアナウンスが流れ、洞爺湖や中島についての詳しい説明を聞くことが

できるので、景色を眺めながら耳を傾けたい。さざ波を立てながら船は進み、弁天島の横をぬけ、底が透けて見えるほど浅瀬になっている観音島と大島の間をぬ

けて進む。そこで見えてくるのが大島の栈橋。およそ25分の船旅を経て、いよいよ中島の一つである大島に上陸だ。



中島を巡る遊覧船は、夏期シーズン(4月下旬～11月上旬)には1時間に2便、冬期シーズンは1時間に1便で、通年運行(冬期は中島上陸不可)。遊覧船はエスポールのほかにも2隻運行している。



散策前に、洞爺湖森林博物館で自然や生物についての知識を吸収

船を下り、栈橋を渡ってすぐのところに洞爺湖森林博物館がある。ここでは、洞爺湖を取り巻く自然と生物などをテーマに沿って資料や展示物で紹介している施設だ。

館内に入ってすぐに出迎えてくれるのが、大型ジオラマ。鳥や動物の鳴き声とともに、はく製が生き生きとした姿で迫ってくる。中島に生息するエゾシカや研究成果についての解説、チョウ、アブ、ハチといった昆虫類の標本など、写真やイラストでわかりやすく展示。中島の樹木の種類等も紹介され、なかなか興味深い。また、レクチャーホールでは中島を中心に編集された洞爺湖の自然映像を見ることができる。



洞爺湖森林博物館は、散策路の入山窓口にもなっている。忘れずに記名しよう。



ところどころに木の名前が書かれたプレートが張ってある。



散策路は中島の倒木をウッドチップにして敷いてあるのでふわふわだ。



風穴は大昔の火山活動によってできたもので、散策路の途中でも見られる。



ジオラマに仕掛けられたボタンを押すと動物たちの鳴き声を聞くことができる。

広々とした「大平原」 天気が良ければ、 羊蹄山の雄姿が見られる

さっそくゲートから散策路に足を踏み入ると、そこはカラマツ林のなか。緩やかな登りをしばらく進むと、アカエゾマツコースと名づけられた道との分岐があり、そこを過ぎると広葉樹が増えてくる。足元の落ち葉がカサカサという音を立て、リズムを刻んでくれる。しっとりとした秋の気配が漂う森林のなかを進むと、いきなり視界がひらける場所がある。「大平原」と呼ばれる約8haの草地だ。ところど

ころに冷気を噴き出す「風穴」と呼ばれる穴があるので、探してみよう。赤や黄色に色づく山と山の間に羊蹄山がひょっこりと顔を出し、景色も抜群。景色をごちそうにしてランチタイムなど、休憩には格好の場所だ。



大島の最高峰・西山(454.8m)と北山の谷間に現れる羊蹄山を眺めながら、ひと休み。





巨木アカエゾマツの静まを導いて、クローン巨木が植栽されている。

在りし日の姿がしのばれる アカエゾマツの倒木

大平原をあとにして10分ほど進んだところに、アカエゾマツの倒木があることを示す看板が。間近で観察するための小径が続いているので、散策道を外れて左手の急斜面を上る。このアカエゾマツは、推定樹齢約350~400年、中島の御神木として古くから親しまれて、2000年には国有林野の代表的な巨樹・巨木「森の巨人たち百選」にも選ばれたが、2004年の台風18号により全倒の被害を受け、今もそのままの状態で保存されている。むき出しの根の部分だけでも4mはゆうにあるだろうか、かつては31mもの高さがあったというから、どしりと根を下ろし豊かな枝振りであったにちがいない。そんな在りし日のアカエゾマツの姿を想像しながら散策道へとUターン。枯葉のじゅうたんが厚くなった道を進み、緩急に富んだアップダウンを越えると、上陸した栈橋とは反対側の北東湖岸に出る。



散策路を歩いていると、エゾシカとよく出会う。中島には現在300頭ほどのエゾシカが棲んでいるという。



北東湖岸を過ぎて南側湖畔に向かう途中、火山が作り出した「露頭」が見られる。

北東岬の南側にある通称「大湾」は、とりわけ静かなたずまい。

変化する地形や景色を楽しみ 秋模様も満喫してフィニッシュ

北東湖岸に出るからは、島の形状をなぞるように歩くこととなる。少しずつ対岸の景色が変化していき、しばらく聞こえていた波の音も、大湾と呼ばれるところにさしかかると波が打ち消されるせいか静けさが訪れる。このあたりの紅葉はあでやかで、ついつい足を止めて見入ってしまうほど。散策道は広くなったり狭くなったりを繰り返して、後半はごろごろとした石の道となり少々歩きづらいが、エゾシカが急斜面を飛びように駆け上がるシーンに出合ったり、変化する地形や景色を楽しんだりできるので足取りは軽

い。饅頭島が見えてきたら、ゴールも間近。やがて遊覧船の栈橋が見えてきて、最後にゲートをくぐってフィニッシュとなる。

大胆さと繊細さを兼ね備えた自然の営み、そして季節が紡ぎ出す美しい風景、目や耳で楽しむ中島散策は洞爺湖の味わいをいっそう深めてくれる。



取材協力／橋浦弥里さん(左)、大森万里江さん(右)

中島散策MAP

施設のごあんない

洞爺湖汽船
遊覧船『エスポアル』

温泉街から大島へ!!
船からの景色も楽しめます。



洞爺湖森林博物館

洞爺湖・中島の自然や生物について
紹介している施設です。
ここで入山申込書も書きます。

大島 散策路



大島へ →
遊覧船からの眺め
いちおしおしお!

観音島
弁天島

温泉街へ



きれいな
まんじゅう
見えます

対岸に久しぶりに
出会えます

昭和新山 有珠山

季節により色をかえます
まんじゅう島